

# ボランティア活動に関する論考

## 「スポーツボランティアについて」

### 1. スポーツボランティアのはじまり

スポーツボランティアは、もともとスポーツの運営を支えるサポーターから始まった。英語の support は、支えること、【主に下から(sub up)の力】であり、ラテン語 supportāre = sub up + portāre からきている。Portāre は to bear 運ぶこと、提供すること(同じルーツの言葉に porter ポーター)である。こうしたサポーターが、スポーツボランティアとして、サッカー試合で試合運営を「ささえた」ことが始まりとされている。

これが他のスポーツに広がり、スポーツを支える力となって浸透したのである。みやぎ・仙台でもベガルタ仙台の試合運営に300名以上のボランティアが支えており、ボランティアなくしては試合はできない状況になってきている。

### 2. スポーツは「する」「みる」「ささえる」

スポーツが日常生活に入ってきたという感を強くするのは、オリンピックやワールドカップのような巨大イベントだけではなく、生涯スポーツとしてジョギングやテニスなど身体を健全な状態に維持するように積極的にスポーツをする人が多くなったことと関連している。日本では一昔前は、競技スポーツとしてのスポーツが興隆していたが、企業スポーツの衰退、少子化による学校スポーツ人口の減少などにより、競技スポーツから、気軽な生涯スポーツに移行してきている。これは、平均寿命の伸長や労働時間の短縮に伴う自由時間の増大の時代を迎え、みんなが自己開発や能力の可能性を探求するような文化的な活動によって、より積極的な自由時間の活用を求めようとしていることに深く関係している。

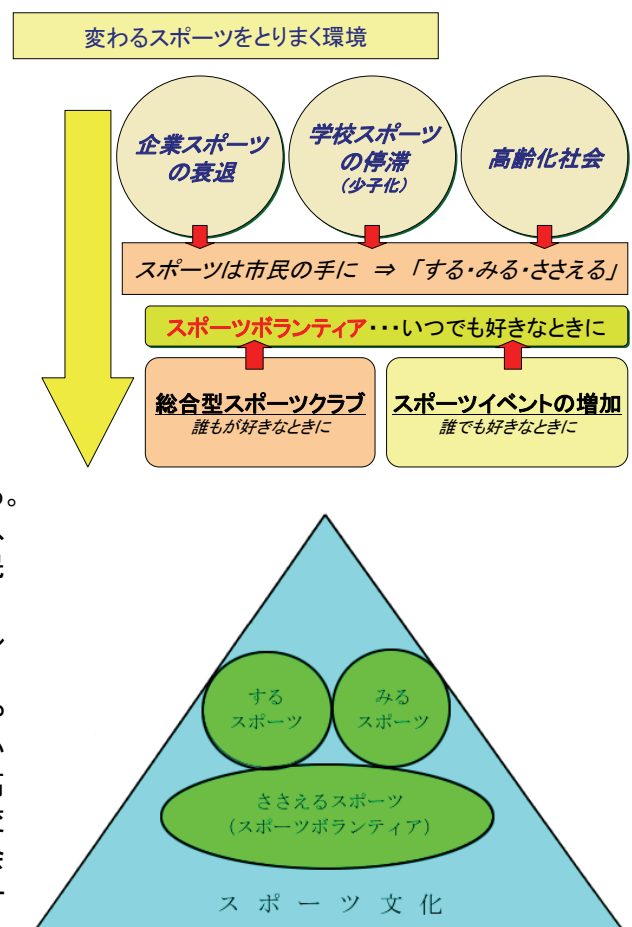
「体力・スポーツに関する世論調査(総理府)」によると、1週間に1日以上運動を行う人は、昭和57年には、約2300万人(約28%)であったが、平成9年には、約3400万人(約35%)にも増加してきており、今日、20歳以上の成人の約「3人に1人」が定期的にスポーツに親しむ時代になってきている。さらに、「する」スポーツだけにとどまらず、競技場やスタジアムで観戦したり、テレビ・ラジオでスポーツ番組を見たり、聞いたりして楽しむ「みる」スポーツの人口は、国民の9割となっている。

一方、長野冬季オリンピック(1988年)以降、「する」スポーツ、「みる」スポーツに加え、スポーツを「ささえる」活動、すなわちスポーツにおける「ボランティア」活動が新たにその意義・価値を認められるようになってきた。長野オリンピックにおいては、約44,000人のボランティアが大会の成功を支え、その活動が国際的にも高く評価された。

スポーツボランティアとして多くの人々が参加した理由は何だろうか。スポーツを「する」にはちょっとと考えるが「みる」だけではつまらないと思う人、「みる」にはスポーツの細かなルールが必要であるが、ルールを知らなくとも気軽にスポーツに接することができると思う人、さらにはスポーツをする、みる人と、あるいは「ささえる」人同士の交流を望む人など、多くの人々が参加してきている。それら「ささえる」人は、地域のスポーツイベントや少年スポーツ活動においても、ボランティア指導者を含む住民ボランティアとして、その活動を支えている。

今後、日本は高度情報化、少子高齢化、グローバル化が一層進み、国民の生活にも大きな影響が訪れよう。そうした中で生涯スポーツの振興は、国民の健康増進や生活の質を高めるだけでなく、地域社会の構築や心豊かな社会づくりに寄与することから、ますますその意義が高まっている。つまり、スポーツ文化は時代の要請により変容してきたし、今後はそれがさらに多様化し、様々な社会的機能を持つことが期待される。すなわち、「する」スポーツから、「みる」スポーツへ、そして「ささえる」スポーツへの広がりである。

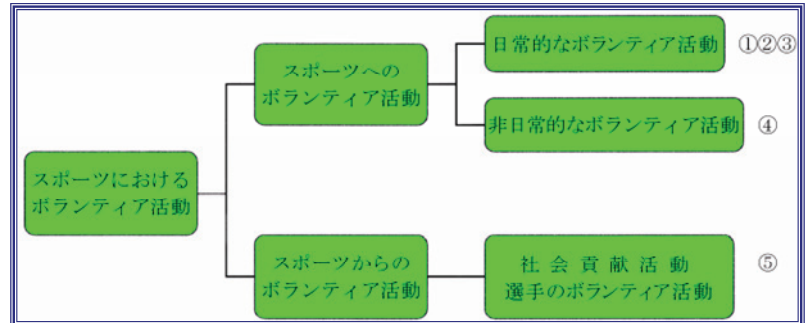
スポーツは、もともと自発的な行為(voluntary)によって生まれた人類固有の文化であり、一般にスポーツ



団体の運営はほとんどそのクラブの会員やボランティアによって行われているのが現状である。

一方、ボランティアというと、我が国では平成7年の阪神・淡路大震災に端を発した災害ボランティアが最近その活動が活発になってきており、あるいは老人や障害者介助のボランティア活動も関心が高くなってきている。スポーツの世界においても、これまでスポーツとは無縁だった人々の中に、スポーツを「ささえる」ことに喜びや意義を感じる人が増えているのは、上述したようにこれまで日本では見られなかった現象である。「ささえる」ということは国際競技大会や地域スポーツイベントの運営の支援となるだけでなく、地域における日常的なスポーツ活動の指導やクラブ運営においても、今やボランティアの活動なくしてその事業展開はあり得ないのである。実際、Jリーグではほとんどのチームにボランティアがあり、ベガルタ仙台など運営に積極的にボランティアを採り入れている。

また、「ささえる」スポーツは単に補助的な役割にとどまらず、これまでになかった新しい「する」スポーツや「みる」スポーツをつくるという、創造的な役割が求められる。このように、21世紀においてはスポーツという文化に対する多くの人々の関わり方が多様化し、新たな発展が期待される。



### 3. ボランティア活動と生涯学習

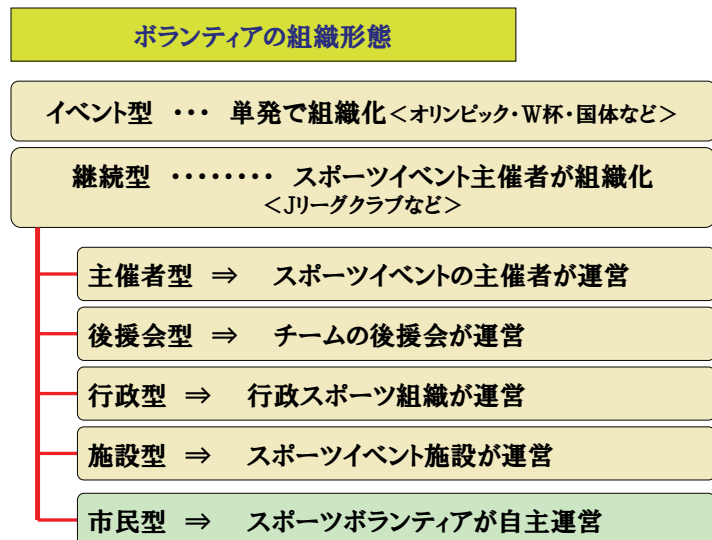
スポーツにおけるボランティア活動は、生涯学習そのものと考えことができ、生涯学習審議会(平成4年7月)の答申では、生涯学習とボランティア活動との関連を次のように指摘している。

- (1) ボランティア活動そのものが、自己啓発、自己実現につながる生涯学習となる。
- (2) ボランティア活動を行うために必要な知識・技術を習得するための学習として生涯学習があり、学習の成果を生かし、深める実践としてボランティア活動がある。
- (3) 人々の生涯学習を支援するボランティア活動によって、生涯学習の振興が一層図られる。

地域におけるクラブや団体の活動は、ボランティア指導者や運営ボランティアが支えており、そのボランティア活動ではボランティア自身は、生きがいや自己実現、自己啓蒙を見いだすことで、日ごろ属している職場や家庭とは異なる「もう一人の自分」を発見する。さらに、ボランティア活動を継続することによって、スポーツに関する教養が磨かれ、自分だけのものだけでなく、他者への支援につながっていく。それゆえ、人々のスポーツ活動を支えるボランティア活動によって、地域や国際競技大会を含めスポーツの振興が一層図られるだけでなく、個人個人の生涯学習活動のさらなる深まりへとつながっていくだろう。

#### ※【 分類 】

- ① スポーツのボランティア指導
- ② クラブ・団体の運営
- ③ 障害者スポーツの支援
- ④ スポーツイベントにおける支援活動
- ⑤ スポーツ選手や団体によるボランティア活動



### 4. みやぎのスポーツボランティア

宮城県内での一過性ではなく継続的なスポーツをサポートするボランティアの活動は98年のベガルタ仙台(当時はブランメル仙台)のボランティア制度の導入から始った。発足して数年は少ない人数で多くの業務をこなしていたが、現在ではJリーグでも最大規模のボランティアが活動している。その後2001年に県内全域で「みやぎ国体」が開催され、市民が主体となって支えるという形では宮城方式として注目された。このボランティアの活動には、ケヤッキークラブの3千人をはじめ、仙台市関連で6千人が活動し、県内全体では約2万人が活動したといわれている。そして2002年、サッカーワールドカップ日本・韓国の宮城大会が開催され、この宮

城県初の世界規模のスポーツイベントでは、JA WOCボラ、開催地ボラ合わせて約2千人のボランティアが活動し、さまざまな経験をしたわけである。

その結果、2003年には施設型のボランティアとしては、日本初めての形式となった、完全公設民営型ボランティア「グランディ21・ボランティア」が発足した。様々なスポーツ大会のサポートや、スタジアムの見学案内、施設の環境整備などの活動している。そして、その翌年には上述のベガルタ仙台や国体、ワールドカップなどのボランティア活動の経験者の有志により、SV2004が発足し、市民型・横断型のスポーツボランティア組織をめざしており、プロスポーツ・アマチュアスポーツなどを主催団体と連携してサポートしている。

そして、2005年には、その SV2004 の全面的な協力により、新たな仲間としてプロ野球初の楽天イーグルスボランティアと、プロバスケットの仙台89ERSボランティアが活動をスタートした。今や宮城・仙台地域は全世界的にも屈指のスポーツボランティア中心地となっている。

(文責： グランディ・21ボランティアキャプテン／SV2004 副理事長 村松淳司)

## みやぎ・せんだいのボランティア変遷



1998年 ベガルタ仙台ボランティア活動スタート (発足時はブランメル仙台)

2001年 宮城国体ボランティアの活動

2002年 ワールドカップ宮城大会ボランティアの活動

2003年 グランディ21・ボランティアの発足

2004年 市民ボランティア・SV2004の発足

2005年 楽天イーグルス・仙台89ERSボランティア発足

## 楽天イーグルスボランティアやベガルタ仙台などの場合の基本ルール

### スポーツボランティアの基本ルール

#### 服装

通常はジャンパー、Tシャツなど決められたものが貸与されます

#### 集合

ボランティア控え室に集り、出欠の受付をします

#### 説明

主催者から、変更点や注意点に関する説明があります

#### 休憩

食事時間をはさむ場合弁当と飲み物が支給されます

#### 観戦

通常は活動中はゲームの観戦は禁止されています

#### 質問

観客からはチームの一員としてみられます、不明な点は確認して

#### 応対

仲間にも観客にも気軽に声をかけましょう、

#### 清掃

清掃は全員で、きれいにして帰りましょう

#### 連絡

万が一欠席・遅刻する場合は必ず連絡、社会のルールの基本です

**最も大切な基本は楽しく活動することです**